

要 覧



地方独立行政法人青森県産業技術センター 水産総合研究所

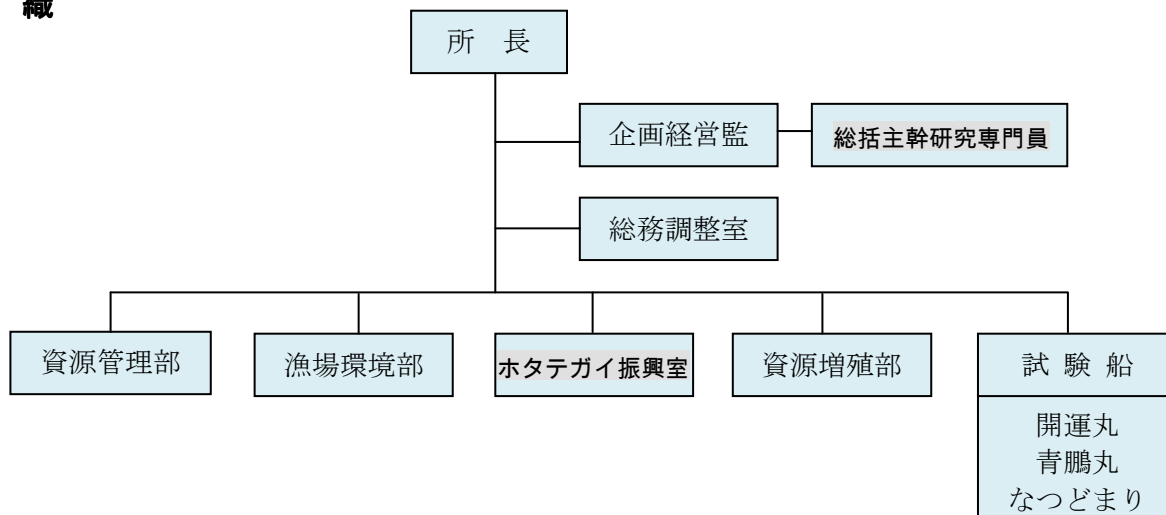


Local Independent Administrative Institution

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center

Fisheries Research Institute

組織



沿革

明治33年2月	青森県水産試験場設置認可(農商務大臣)
33年4月	青森市大字大野字長島青森県庁構内に設置し事務開始
34年	相坂鮭鱒人工ふ化場を上北郡藤坂村に設置
大正13年	本場を八戸市湊町に移転
昭和23年	黒石養魚場を南津軽郡中郷村に設置
23年	本場を西津軽郡鱒ヶ沢町に移転、庁舎新築
24年	むつ市に水産試験場陸奥湾分場として発足
25年	黒石養魚場を黒石市大字石名坂に移転
27年	陸奥湾分場が陸奥湾水産増殖研究所と改称され独立機関となる
43年	水産増殖研究所平内町茂浦に移転され、水産増殖センターと改称される
51年3月	鱒ヶ沢町大和田に水産試験場新庁舎を竣工
56年4月	青森県内水面水産試験場の設置により、相坂、黒石両養魚場及び内水面関係業務を移管
平成2年	東奥丸4代目建造
5年	水産増殖センター新庁舎竣工
6年	開運丸2代目建造
8年	なつどまり建造
11年	青鵬丸3代目建造
12年4月	水産試験場創立100年
13年3月	八戸市ポートアイランドに漁具倉庫新築
15年4月	試験研究機関の統合により青森県水産総合研究センターと改称され、下部機関として増養殖研究所、内水面研究所が配置となる
18年4月	水産総合研究センター庁舎を鱒ヶ沢町舞戸町に移転
20年4月	増養殖研究所(旧水産増殖センター)創立40年
21年4月	青森県水産総合研究センターと増養殖研究所を統合し、地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所となり、庁舎を平内町へ移転

水産資源を継続的に有効利用してゆくために、資源の再生産機構を解明し、資源量やその動向を評価し、漁業資源としての管理方法について研究しています。このため魚の成長、年令、分布、移動回遊などの基礎的な調査の他、これらの研究を通じ漁業者の関心が高い漁況予測にも取り組んでいます。また栽培漁業や魚礁などの効果に関する調査も行っています。

1. 資源解析のための魚体調査

★ 資源全体の成長と年令構成を推定するためのサンプル調査



ヒラメの体長と重量の測定



ヒラメの年令査定(左:耳石の取り出し 右:3才魚の耳石の写真)



2. トロール網による底魚類の分布量調査

★ 日本海、津軽海峡、太平洋でのモニタリング調査



試験船青鵬丸でのトロール網の投入状況



サンプル(ムシガレイ、ヤリイカなど)

3. 魚礁の蛸集効果についての調査

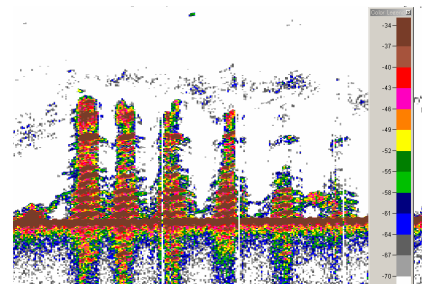
★ 魚の蛸集量を推定するための計量魚群探知機調査



魚礁に蛸集するウスメバル



計量魚群探知機モニター



魚群と魚礁の反応映像

調査船や自動観測ブイなどを使って、本県を取り巻く海の環境や回遊魚の資源調査を行っています。それらを基に、回遊魚の来遊状況や、養殖などに影響を与えるような海の状態などの情報を漁業関係者に提供しています。

また、ホタテガイ等の食品としての安全性確保するために、ホタテガイ等二枚貝の毒化状況や、毒化の原因となるプランクトンの出現動向を調査し、ホタテガイが毒化する仕組みの研究に取り組んでいます。

1. 環境及び回遊資源調査

- ★ 太平洋・日本海の定線観測
- ★ 陸奥湾の浅海定線観測
- ★ スルメイカ一斉調査など



水温などの海洋観測



スルメイカの成長や成熟状態を計測



陸奥湾の海洋自動観測ブイ

2. 情報提供

- ★ 漁海況情報「ウオダス」発行
- ★ 陸奥湾海況情報発行



陸奥湾の水温や流れなどの情報作成・提供

3. 貝毒モニタリング

- ★ 貝毒原因プランクトン調査



下痢性貝毒原因プランクトン
(*Dinophysis fortii*)



貝毒原因プランクトンの計数



プランクトンの繁殖を左右する
海水中の栄養塩の分析

ホタテガイ振興室 Scallop Promotion Section

青森県の沿岸漁業における重要な水産物であるホタテガイについて、生産の安定を図るため、増養殖に関する調査研究を推進するとともに、漁業者に各種の情報提供を行っています。

1. 調査

- ★ 天然採苗予報のための調査
(母貝成熟度、ラーバ、付着稚貝調査)
- ★ 垂下養殖貝、地まき増殖貝の実態調査



地まき増殖貝実態調査



母貝成熟度調査



ラーバ調査



付着稚貝調査

2. 研究

- ★ 養殖管理行程の改善、へい死原因の解明、適正収容量に関する研究



実験漁場における養殖実証試験



メモリー式観測機器による
漁場環境モニタリング



電子顕微鏡による組織観察

3. 情報提供

- ★ 採苗速報・養殖管理情報の発行
- ★ 青空教室、勉強会、座談会の開催



漁業者の勉強会



稚貝採取の技術指導(青空教室)

資源増殖部 Fisheries Resource Enhancement Section

本県の栽培漁業を推進するために、魚類の種苗生産技術の開発と放流効果の検討などを行っています。また、海藻類を主とした磯根資源の増養殖技術の開発を行っています。

1. 魚類の種苗生産技術等の開発

- ★ 魚類の種苗生産技術の開発
- ★ 市場調査等により放流された人工種苗（標識魚）の放流効果の把握



魚類の種苗生産



生物餌料(ワムシ)の培養



生物餌料(ワムシ)



マコガレイの人工授精



市場調査(標識魚の探索)

2. 海藻類その他の磯根資源の増養殖技術の開発

- ★ コブなどの有用海藻類の増養殖技術
- ★ 海藻以外の磯根資源の増殖手法についての調査・研究



人工採苗用の母藻の管理

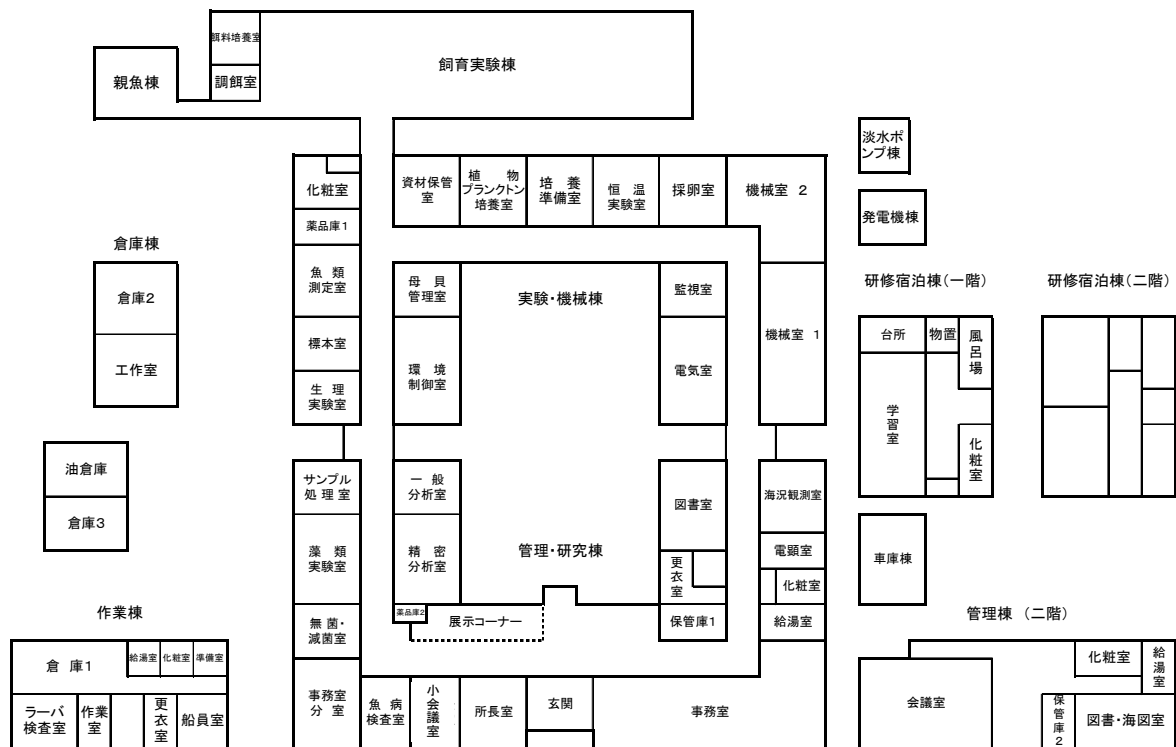


人工採苗により育成された海藻



生長した海藻(人工採苗)

○施設の概要



① 土地		20,971.30 m ²	・親魚棟コンクリート水槽 30トン：1面、20トン：1面
② 建物		5,461.74 m ²	10トン：4面
・管理研究棟	鉄筋C 一部2階建	1,735 m ²	・屋内FRP水槽 30トン：2面、10トン：2面
・実験機械棟	鉄骨造 平屋建	1,122 m ²	5トン：3面
・飼育実験棟	〃	1,563 m ²	・ブロー 3.7KW：2台、5.5KW：1台
・研修宿泊棟	木造 2階建	271 m ²	・発電機 500KVA：1台
・作業棟	〃 平屋建	324 m ²	・海水温度制御装置 (アクアトロン)
・取水ろ過棟	鉄筋C	103 m ²	温海水 5系統 35トン/時
・倉庫棟	木造 平屋建	108 m ²	冷海水 4系統 6トン/時
・発電機棟	鉄筋C 〃	59 m ²	・海況自動観測装置 (パイロボット) 3基
・車庫棟	鉄骨造 〃	74 m ²	
・油庫棟	〃	8 m ²	④ 試験船
・その他		95 m ²	・開運丸 199トン ディーゼル 1.176kw (鋼船)
③ 主な施設			・青鵬丸 65トン ディーゼル 1,000 PS (〃)
・海水取水ポンプ	7.5KW 3台		・なつどまり 19トン ディーゼル 610kw (軽合金)
・逆洗ポンプ	18.5KW 1台		⑤ 実習船
・ろ過槽 (重力式)	80トン/時 3基		・二十一海洋
・ろ過貯水タンク	120トン 1基		2.8トン 船外機 (4サイクル) 110KW (FRP船)
・屋外コンクリート水槽	12トン：6面、10トン：8面		

○案内図



○住所・電話等

〒039-3381

青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊 10

TEL 017-755-2155 FAX 017-755-2156

ホームページ URL : <http://www.aomori-itc.or.jp>



青森県の魚ひらめ
(昭和 62 年 7 月 20 日制定)



遊泳するスルメイカ



水揚げを待つホタテガイ漁船



陸奥湾から望む夏泊半島